

くろ かわ はる よし
黒川治愿

立国のもとには農、農は治水にあり
— 愛知の河川土木の礎を築く —



黒川治愿 (1847 ~ 1897)
 肖像画：『偉人黒川治愿伝』2021

終えた。掘川と庄内川を結ぶ新水路は黒川用水と名付けられた。（「黒川」は地下鉄駅名にもなっている）。

■ 治愿の一夜橋

1878(明治11)年10月、明治天皇巡幸のおり、大雨により豊川が氾濫、豊川に係る橋が流れた。このとき、ご巡幸係を命じられていた黒川は、仮の橋を一夜にして完成、無事巡行が進み、宮内省より賞賛された。

■ 明治用水の開鑿

1879(明治12)年から長年の懸案であった明治用水の工事に、安場県令より黒川に工事の統括が命じられた。黒川は専心この任にあたり、地元伊与田予八郎、岡本兵松等と協力し、1880(明治13)年3月竣功をさせた。荒蕪の地を沃野と化し其恩恵は70余村に及んだ。

■ その他の事績

1880(明治13)年には黒川は初代土木課長となった。黒川の関わった事業には、この外、立田輪中での鵜戸川(新川)延長、入鹿池堰堤の改修(明治12年)、三河乙川改修(明治15年)、宮田用水原樋増築(明治17年)など各方面に及んだ。立田輪中の排水路工事では彼の意見が通らず、1885(明治18)年3月県職を辞している。1887年7月に再び就任するよう求められたが固持して受けなかった。その後は南久屋町で過ごし、1897(明治30年)5月、50歳にして病没した。

愛知県職としての黒川の10年は、安場県令に見出され、若き技術官僚としてその才を縦横に発揮し、後世に大きな足跡を残した。名古屋の平和公園には、安場保和の撰文による「故黒川治愿之碑」が建てられており、黒川の功績を今日に伝えている。

黒川治愿(1847~1897)は、明治用水や掘川への黒川用水の開鑿など、愛知県の治水灌漑事業に大きな足跡を残した県の土木官僚である。1847(弘化4)年、岐阜県佐波村(現岐阜市)の大庄屋川瀬文博の次男に生まれた。1868(明治元)年、20歳のとき京都に遊学し、その翌年新政府に出仕、香川県吏を経て1870(明治8)年、愛知県勸業課土木係に赴任した。

■ 黒川用水の開鑿

黒川は、時の愛知県令安場保和は掘川に水が少なく舟運に支障を来しているとして対策を命じられ、新木津用水を拡張して庄内川へと流し、掘川に引込む計画を立てた。途中の矢田川の横断には河床下に水路を設け、1877(明治10)年10月に工を



庄内川から導水した黒川用水と樋門

(浅野伸一撮影)



故黒川治愿之碑 (浅野伸一撮影)

(浅野伸一)